

令和8年度 能美市立根上中学校 学校評価

重点項目 (のさす)	具体的方策	【評価指標】 <成果指標>・<努力指標> <満足度指標>	【評価の根拠】 達成度判断基準	取組状況と今後の改善策	評価	学校関係者 評価者 による意見
1 (教務科・ 組織的な 学校運営を 進める)	① 気づきを大切にし、的確な「報告・連絡・相談」をする。	【努力指標】 管理職、校務分掌、学年での「報告・連絡・相談」を密にし、協力して課題解決に対応する。	【教職員アンケート】 ・気づきを大切に、的確な「報告・連絡・相談」をしている。 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	【肯定的回答 98％(そう思う64％、どちらかといえばそう思う32％)】 ・デジタルと対話のベストミックス(手段の最適化) ・今は肯定回答100％を目指し、チャットによる迅速な「報告・連絡」の利点を生かしつつ、直接対話による「相談」を意図的に充実させていく。日常的な情報共有はデジタルで効率化し、複雑な事案や課題に際れる意見等については対話を重視する。と、コミュニケーションの質をさらに高める。 ・「気づき」から「協働的な課題解決へ」 ・得られた情報を共有しに留めず、教職員一人ひとりの小さな「気づき」を起点とした組織的な課題解決へと繋げるため、分掌や学年の境線を越えて連携できる体制をさらに強固なものにしていく。	A	・教職員の時間外勤務が月80時間を超えるケースに対し、基準の見直しや、個人の努力に頼らない業務の削減や分担といった組織的な対応を期待している。 ・長時間勤務の事由を検証し、適切な業務配置を行う必要性もある。
	② 働き方の見直しを進める。	【努力指標】 月2回以上の定時退校を設定、業務の標準化、平日部活動の時間短縮などに取り組み、時間外勤務時間を短縮する。	【時間外勤務時間調査】 ・時間外勤務時間が月80時間を超えないように勤務している。 A 100％ B 90％以上 C 80％以上 D 70％以上	【肯定的回答 80％(そう思う24％、どちらかといえばそう思う56％)】、【否定的回答 20％(どちらかといえばそう思わない12％、そう思わない8％)】 ※月80時間を超えない職員 89.4％(1学期) ※時間外勤務80時間以上 →4月4名 5月2名 6月3名 7月2名 ・「月80時間超えゼロ」を目指す、個人の数値のみに依存しない組織的な業務改善を推進する。 ・管理職による働きかけの継続 80時間を超える傾向にある職員に対し、限られた時間内での業務の優先順位付けや精選について、管理職が共に整理し具体的な改善を促す。 ・組織的な業務の標準化 学年や校務分掌内での業務分担をさらに推進する。特定の担当者に業務が偏らないよう、組織全体でサポートし合える協働体制を強化し、実質的な業務負担の軽減を図る。	C	・部活動の地域移行により退勤時間が早まるなど、一定の負担軽減も見られる。能美市全体として、今後1年半で土日の部活動指導を教員から完全に切り離す計画が進行しており、兼職兼業制度の活用も始まっていることに期待している。
	③ 生徒の「自己指導能力」を育む。	【努力指標】 生徒指導の4つの視点を意識した実践を重ね、「自己指導能力」の育成を目指す。	【教職員アンケート】 ・生徒指導の4つの視点を意識し、「自己指導能力」を育むことができた。 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	【肯定的回答:92.0％】 ・1学期を踏まえ、各学年に応じた自己指導能力を検討することで実践にあたり取り組みへとつながる。さらなる向上のために実践していく。	A	・長時間労働となっている業務を他の人に代行するなどの改善案が求められる。
2 (自ら進んで学ぶ生徒)	① 生徒が主体的に課題解決に向かえるようにする。	【満足度指標】 課題解決の目的を明示したり、生徒が教科の見方・考え方を働かせることができるように指示を明確にしたり、生徒の考えや学習状況を参照できるようにしたりすることを通じて、生徒が試行錯誤して学ぶことができる授業準備を行う。	【生徒アンケート】 ・授業では、学習課題や学習の目的をつかみ、いろいろな方法や視点から試行錯誤して課題解決に向かうことができた。 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満 【教職員アンケート】 ・授業では、生徒が試行錯誤して学ぶことができ、学習の目的を明示したり、見方・考え方が働くよう指示を明確にしたり、GIGA環境を活用して課題に指示・説明している。 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	【生徒肯定的回答:83.8％、教職員肯定的回答:96.0％】 ・今一度、授業の課題設定とまとめ、振り返りの整合性がとれているかに意識を置くこと。その上で、授業の展開部分の活動内容が適切なのかを考えていく必要がある。 ・このようなアンケートや生徒の日々の授業の振り返りをもとに、授業を考え、生徒とともに授業を作っていく意識を持って、実践を行う。 ・教科部会の中で、視点を持ちながら、実践や困り感を共有しあい、教職員全体で研究を進める。	B	・AIが普及する現在でも、中学生時代には自ら考える力を養う活動が不可欠である。 ・授業評価における生徒と教職員の認識の開き(10ポイント以上の差)については、生徒の声を直接聞き、互いに課題認識を共有する意見交換の場を設けてほしい。あわせて、過度な負荷が生じないようにしてほしい。
	② 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実にさせる。	【満足度指標】 生徒に自分の考えを表出させ、育成すべき資質・能力に沿って生徒の学習状況を見取ることを通して、具体的な支援を行い、目標達成につなげる。	【生徒アンケート】 ・授業では、Chromebookのアプリやクラウドを効果的に活用して、友達と意見を交換したり、先生からアドバイスをもらったりしながら、課題解決しようとすることができた。 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満 【教職員アンケート】 ・GIGA環境を活用して、生徒の学習状況を把握し、生徒と生徒をつなげたり、個別に支援している。 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	【生徒肯定的回答:93.2％、教職員肯定的回答:84.0％】 ・引き続き、生徒をつなげる、交流を促すことができる授業実践を行っていく。生徒をつなげるための一つの手段として、Chromebookの活用を行っていく。	B	・Chromebookの活用状況では、生徒側の自己評価が教員側の評価を上回る傾向が見られ、生徒にとっては同端末が日常的に定着・活用されていることがわかる。
	③ 視点を明確にしてアウトプットさせる。	【満足度指標】 学習課題と整合した適切な形でまとめ、本時の学びに合った振り返りを通じて、必要な情報を抽出して考えを形成する力を育む。	【生徒アンケート】 ・授業では、課題に合うような形で、本時の学びをまとめたり、振り返りすることができた。(授業での学びを生きて、自分の考えを表現したり、作品をつくり出すことができた。) A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満 【教職員アンケート】 ・授業の終盤部分で、生徒が課題に合った適切なまとめ、振り返りができるよう手立てをとり、生徒の振り返りの記述内容を採点改善に活かしたいとしている。 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	【生徒肯定的回答:70.8％、教職員肯定的回答:84.0％】 ・まとめの時間を確保するために、授業のタイムマネジメントに意識を向ける必要がある。 ・まとめ、振り返りの活動のときは、「視点」を明確に与え、何についてどのようにまとめるのか、振り返るのかを考えることが必要である。	C	
3 (明るく楽しい授業環境を創出する)	① 生徒指導・教育相談を充実する。	【努力指標】【成果指標】 生徒指導や教育相談を充実させることで、年間的事件件数を減らす。	【生徒指導データ】 ・生徒指導事案(暴力・いじめ等)の発見と解決。 A 100％ B 90％以上 C 80％以上 D 70％未満 【教育相談データ】 ・新たな不登校及び不登校傾向の生徒を少なくない。	【暴力認知件数15件、いじめ認知件数4件、うち解消3件】 ・解消確認まで3カ月を要する未だ解消件数は少ないが、情報を共有し、今後の対応策や、トラブルを未然に防止するための方法などについて、話し合っている。また、chromebookを使つての月1回のいじめアンケート、個人面談も引き続き継続し、トラブルの未然防止につなげていきたい。	B	・些細なトラブルにも丁寧に指導して理解すること理解の上で、暴力認知件数が15件である点に対し懸念があるが、道德教育を通じて件数を減らせられるとよい。同時に、生徒指導や教育相談、日々の振り返りなどを通じて、学校側が丁寧に取り組んでいる姿勢を理解できた。
	② 特別の教科道德において、道德的価値について考えを深める。	【努力指標】 生徒が、効果的な振り返りを通して、道德的価値についての自身の考えの深まりを実感できるようにする。	【教職員アンケート】 ・ねらいとする価値にせまるために、多面的・多角的な見方ができるような授業展開の工夫に努めている。 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満 【生徒アンケート】 ・道德の授業では、友達との話し合いなどを通して、課題について自分の考えを深めることができた。 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	【生徒:89.8％、教員:94％(授業者のみ)】 ・道德ノートを活用し、記述による振り返りと、以下の4点を三段階で自己評価している。 ①発問に対し、自分では伝えたいと考えることができた。 ②友達とお互いに考えを伝え合うことができた。 ③自分の考えを広めたり、深めたりすることができた。 ④これからの自分はどうか考えることができた。 ・学生での教材や板書の共有、リレー授業などの取り組みを通して、生徒のより深い学びにつながる発問や展開の工夫ができるよう、教師間の情報交換を通して授業力の向上に努めている。 ・「Qワード」や道德ノートを用いて、話し合いで感じたこと・学んだことを効果的に振り返る場面を設定し、生徒の考えの深まりを実感できる機会とさせていく。	B	・いじめに関しても「見逃しゼロ」を目指し、初期段階での把握と徹底した指導を継続する方針が理解できた。
	③ 郷土を愛する心を育成する。	【満足度指標】 地域と連携したキャリア教育やふるさと教育を計画的・効果的に実践する。	【教職員アンケート】 ・総合的な学習の時間等を活用し、生徒のキャリア発達を促したり、郷土を愛する心を育成したり。 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満 【生徒アンケート】 ・「能美市・根上町の良さを今知っている」の結果 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	【教92.1％、生:根73.8％、生:能63.2％】 ・今後は、2学期に予定されている各種行事や総合的な学習の時間の地域体験・探究活動を通じ、能美市や根上中学校の魅力に直接触れ、実感できる工夫を行っていく。あわせて地域との連携を深め、能美市の環境や企業、人々に触れる実践的な活動を推進することで、地域の良さを再発見させ、郷土を愛する心の定着を図っていくたい。	C	
4 (強い身体をもつ生徒)	① 基礎体力を向上させる。	【努力指標】 教科体育の充実や適正な部活動運営を通して、基礎体力の向上を図る。	【体力テスト】 ・2、3年生の体力テストにおいて、総合評価がよい結果が出ている。 A 60％以上 B 50％以上 C 40％以上 D 40％未満	【体力テスト 45.5％】 ・各項目をいかに高めていくかが課題となっており、保健体育の授業の中で、向上に向けたトレーニングを実施していく。	B	・若年期の生活習慣が将来の健康維持(歯・視力・体力)に直結する重要性を生徒へ伝えるよう求める意見が出た。また睡眠や食事等の基本的な生活習慣改善には家庭との連携が不可欠であると考ええる。
	② 健康教育を充実させる。	【満足度指標】 「睡眠」と「朝ごはん」を基盤として、歯科検診や眼科検診の結果を含め、生徒が年間を通して生活改善を意識できるようにする。	【生徒アンケート】 ・「毎日朝食を食べている」ができていた。 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満 ・「睡眠時間の確保」ができていた。 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満 【保護者アンケート】 ・歯科検診、眼科検診後の受診状況 A 80％以上 B 70％以上 C 60％以上 D 60％未満	【毎日朝食をたべている:肯定的回答93.2％】 【睡眠時間の確保:肯定的回答76.9％】 【保健調査の受診状況:眼科30.2％、歯科16.4％】 ①保健部会で5月10日の健康を訴える中で睡眠の大切さを伝える放送を複数回行った。6月には歯の健康ポスターを作成する際に受診勧奨の文言を入れた。 ②歯科検診と眼科検診の実施後と個人懇談会のときで2回個別に受診勧奨の書類を渡した。 ・毎朝の健康観察で朝食を食べない生徒を把握できている。原因と改善案について個別に対応していく。 ・生食会保健部の活動に「質の良い睡眠」に関する啓発活動を取り入れていく。 ・受診状況があまりにも低い場合は、再度個別で御案内もしくはコドモンで知らせたい。	C	・体力テストの結果数値だけで評価せず、子どもたちが日々明るく元気な過ごすごことを重視すべき。 ・体力テストでは全国平均を上回る項目もある一方、スマホ・ゲーム利用、睡眠時間、部活動の減少等に伴う体力低下への懸念がある。 ・保護者が健康教育の必要性を理解し、家庭で実践を促すための啓発機会の充実が今後の課題となる。
	③ 積極的な情報公開と社会貢献を展開する。	【満足度指標】 学校運営協議会を中心に、コミュニティスクール(CS)としての機能を推進し、家庭・地域との連携を強化する。	【保護者アンケート】 ・学校・保護者・地域が結び合っており、生徒の成長を支えていると感じる(コミュニケーションスクールの連携等)。 A 60％以上 B 50％以上 C 70％以上 D 70％未満 【教職員アンケート】 ・学校運営協議会での話し合いを中心に、保護者や地域からの意見を、日々の教育に生かしている。 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	【保護者:60％、教員:96％】 ・活動の様子を積極的にホームページやコドモンに発信し、CSへの理解度を高める。 ・地域全体で生徒の成長を支える体制を強化するために、働き方改革を継続しつつ、教員が地域住民や保護者と直接対話できる機会を創出することで、相互理解と信頼関係の更なる深化を図る。		・単なる情報発信の数だけでなく、保護者、PTA、評議員が直接交流できる機会の創出や、町内会等での活動周知、保護者用アプリ「コドモン」からのウェブサイトへの誘導など、具体的に改善してほしい。
5 (家庭・地域との連携)	① 学校運営協議会を充実させる。	【成果指標】 ホームページやコドモンでの情報発信につとめ、学校教育活動に対する家庭・地域からの理解を深められるようにする。	【保護者アンケート】 ・生徒の学校生活の理解の様子を知るために、学校ホームページを定期的に閲覧している。 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満 【保護者アンケート】 ・生徒の学校生活の理解の様子を知るために、コドモンを定期的に閲覧している。 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満 【保護者アンケート】 ・「そうしている」「あいさつができる」「(生活)に取り組んでいる」の結果。 A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	【HP:37.7％、コドモン:50.4％】 ・HPの構成見直しと利便性向上を目指す。HPとコドモンの両輪での情報公開により、情報の「確実な届く場所」と「記録の蓄積場所」という役割を明確化する。 【そうじ:90.9％、あいさつ:87.3％、係:94.4％】 ・生徒の社会奉仕意識の高さを活かし、生徒会等の主体的取組の継続と、地域交流を拡充する。さらに生徒の活動や地域連携の様子を具体的に伝えること、地域との信頼関係を深化させ、生徒の自己有用感を高める活動へと繋げていく。		・今後これらの意見を踏まえ、ウェブサイトや学校行事の場を活用し、コミュニティスクールの活動内容やメンバーの可視化を一層強化してほしい。